

# どうするプラスチック汚染 問題提起



*by Hikaru Mizuki*

共同通信 編集委員 井田徹治

著作権上の問題が生じますので写真・資料・記事などの無断転用・引用はご遠慮ください



© Mizuki Hikaru, all rights reserved

アフリカ ギニアの海岸



© Mizuki Hikaru, all rights reserved

アフリカ ザンビアのゴミ捨て場



© Mizuki Hikaru, all rights reserved



© Mizuki Hikaru, all rights reserved



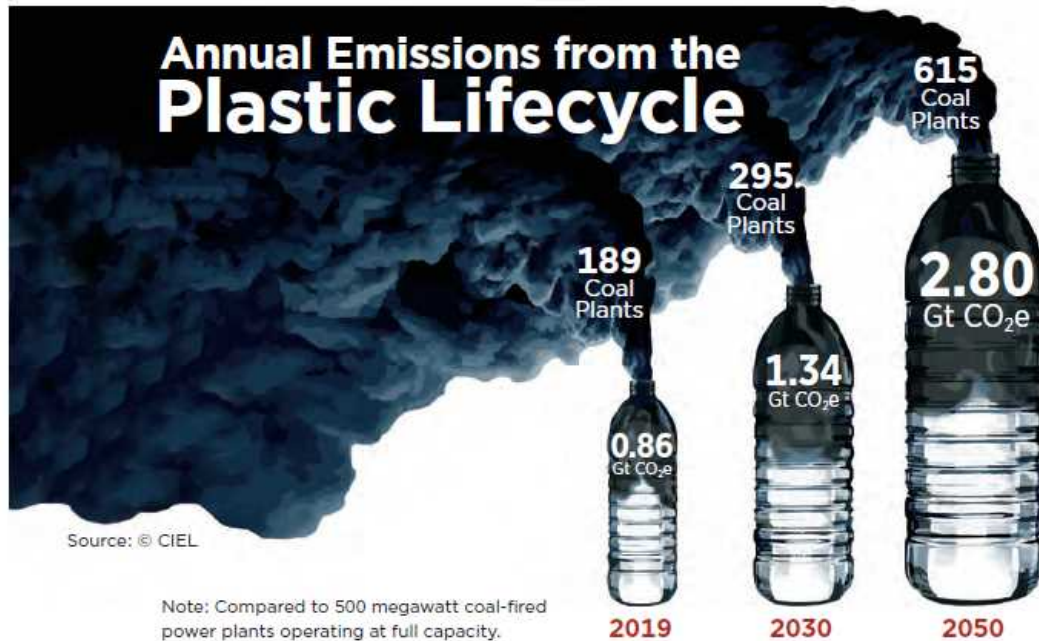
© Mizuki Hikaru, all rights reserved



© Mizuki Hikaru, all rights reserved

モルディブのごみの島

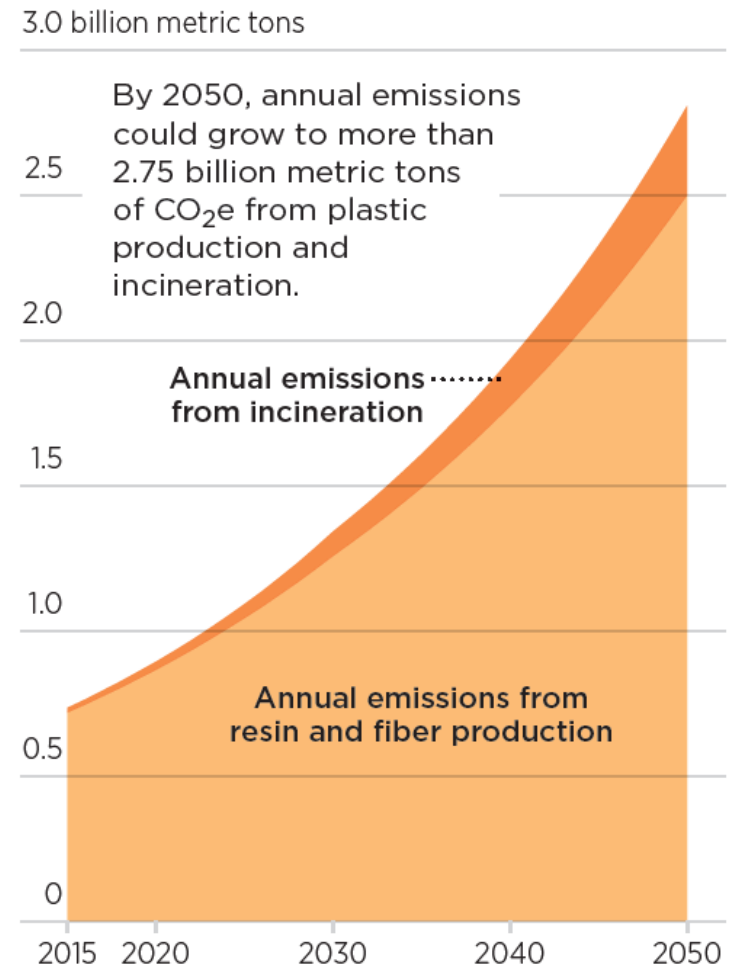
FIGURE 1  
Emissions from the Plastic Lifecycle



米国のシンクタンク 国際環境法センター  
(CIEL)



FIGURE 2  
Annual Plastic Emissions to 2050



# 問題提起

@プラスチック汚染は地球規模の問題  
気候危機、脱炭素と密接不可分







© Tetsuji Ida, all rights reserved



# リサイクルすればいい？

日本の年間のペットボトル生産量

2004年 148億本 → 16年 227億本

回収率は2年連続で低下



90%近く回収しても年間25億本は未回収  
「率」ではなくて絶対量の議論が必要



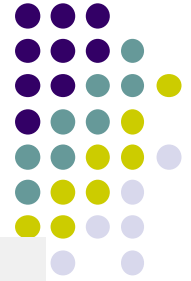
© Mizuki Hikaru, all rights reserved



© Mizuki Hikaru, all rights reserved



# 代替品は解決か？



あらゆるプラスチック製買物袋を有料化することにより、過剰な使用を抑制していくことが基本ですが、環境性能が認められ、旨の表示がある以下3点は対象外です。こうした袋への転換を進めるなど、環境価値に応じた価値付け等を推奨しています。

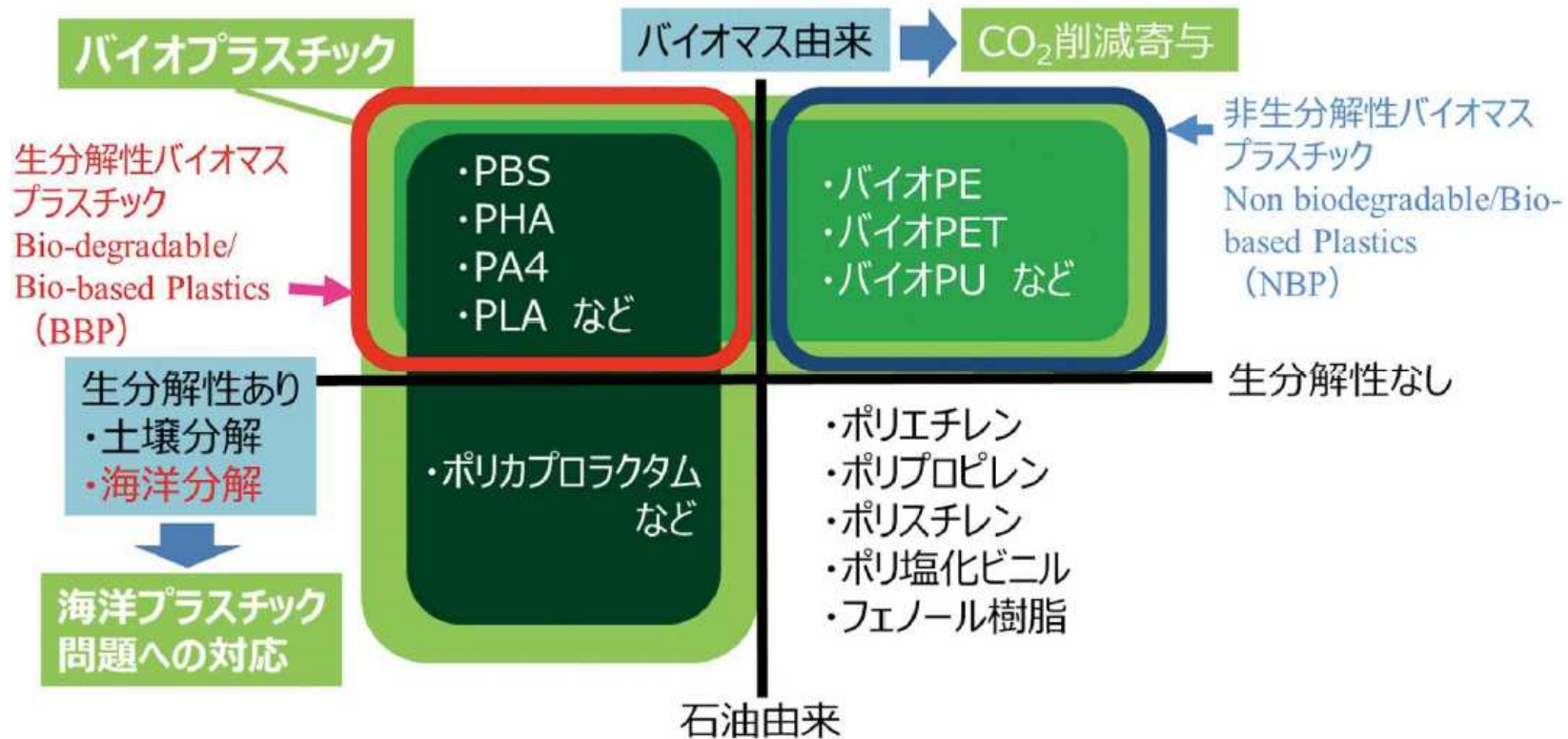
1 厚手 50 $\mu$ m↑ 繰り返し使えて地球にやさしい

2 生分解性プラ 微生物によって海洋で分解され地球にやさしい

3 バイオマス 温暖化対策に寄与する地球にやさしい素材

有料化の対象外となる買物袋

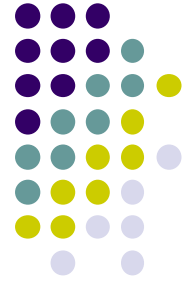
- 1 プラスチックのフィルムの厚さが50マイクロメートル以上のもの  
繰り返し使用が可能であることから、プラスチック製買物袋の過剰な使用抑制に寄与するためです
- 2 海洋生分解性プラスチックの配合率が100%のもの  
微生物によって海洋で分解されるプラスチック製買物袋は、海洋プラスチックごみ問題対策に寄与するためです
- 3 バイオマス素材の配合率が25%以上のもの  
植物由来がCO2総量を変えない素材であり、地球温暖化対策に寄与するためです



出典：各種資料を基にNEDO技術戦略研究センター作成（2018） 4

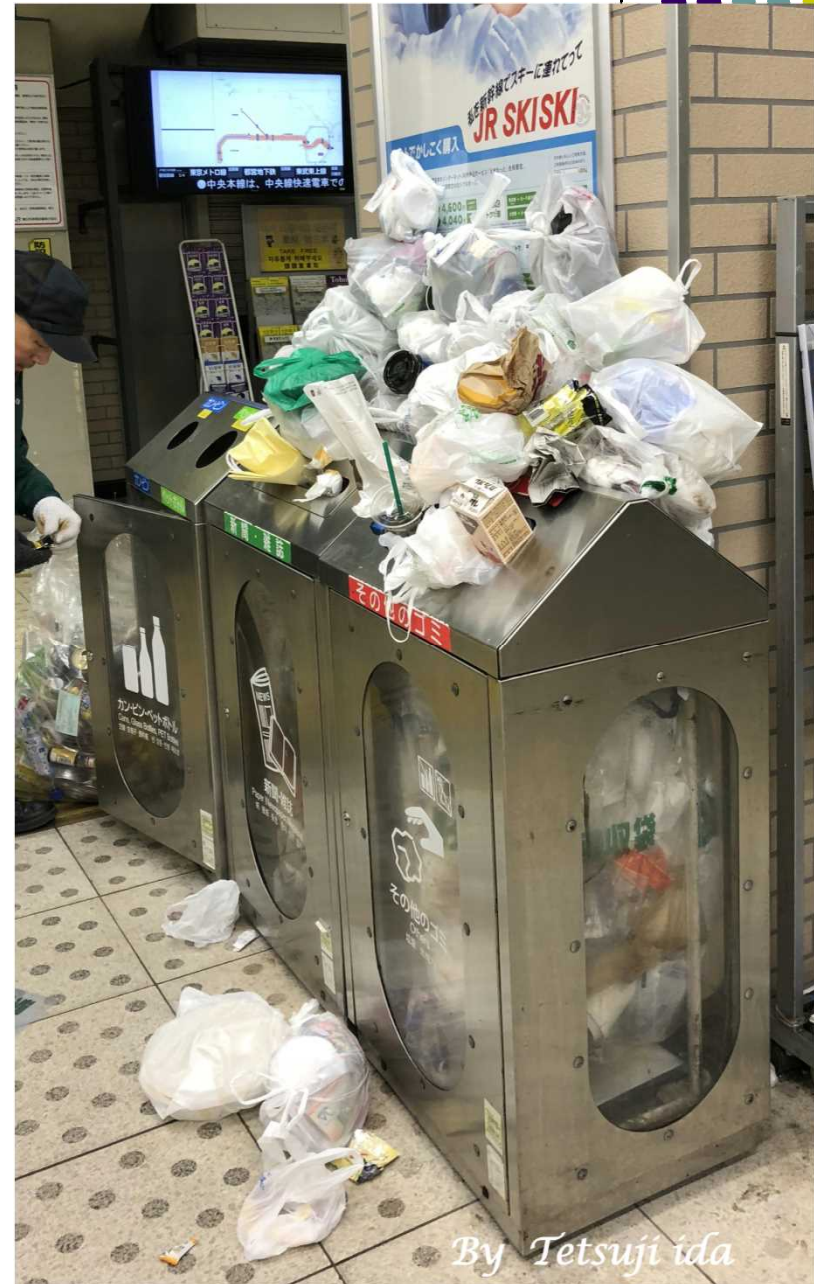
バイオマス素材でも分解されないものが多い  
燃やせば二酸化炭素が出るものがほとんど  
原料にも問題：食品との競合、パームオイル

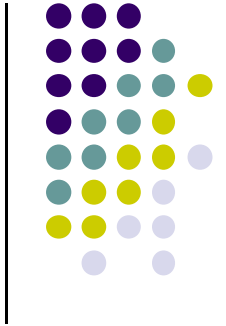
# 問題提起



@プラスチック汚染は地球規模の問題  
気候危機、脱炭素と密接不可分

@安易なりサイクル・安易な代替品は要注意  
総量の議論、総量削減が重要

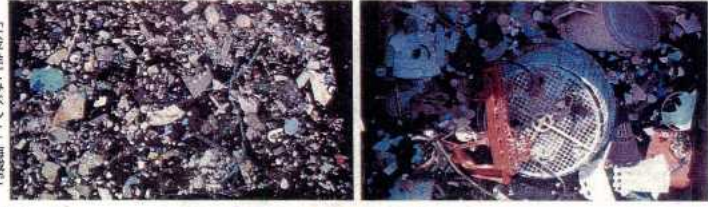








# 1兆8000億個、7万9000ト漂う



「太平洋プラスチック」海流で漂うかかった家のプラスチックごみ(市庁舎前)をルーペで撮影

# 太平洋プラスチックみべルト

北太平洋の米カリフォルニア州沖からハワイ沖に、海を漂うプラスチックごみが集まる「太平洋ごみベルト」と呼ばれる海域があり、ごみの総量が約7万9千トンに達するとの推計をオランダなどの研究グループが20日までまとめた。細かく砕かれた微粒子「マイクロプラスチック」を中心に1兆8千億個が漂うと試算している。生態系への影響が懸念され、削減のための国際的な協力体制の構築が課題となる。



※米海洋大気局の資料から

海プラスチックごみ  
「太平洋ごみベルト」は、北太平洋の米カリフォルニア州沖からハワイ沖に、海を漂うプラスチックごみが集まる「太平洋ごみベルト」と呼ばれる海域があり、ごみの総量が約7万9千トンに達するとの推計をオランダなどの研究グループが20日までまとめた。細かく砕かれた微粒子「マイクロプラスチック」を中心に1兆8千億個が漂うと試算している。生態系への影響が懸念され、削減のための国際的な協力体制の構築が課題となる。

## 日本製が約30%

「ごみの種類は包装用の容器や漁網が多く、確認された最も古いものは1977年の生産だった。グループは2015〜16年、船を使った採取調査や飛行機による上空からの観察を実施。コンピューターシミュレーションを加えて面積やごみの量を推計した。地球上には海流でごみが集まりやすい海域があることが知られている。太平洋ごみベルトもその一つだが、実態はよく分かっていない。

8月20日 (月曜日)

あすの天気

午前 午後 夜



中部 降水確率 80% 気温 24-31℃



南部 降水確率 90% 気温 23-30℃



北部 降水確率 30% 気温 24-32℃



西部 降水確率 60% 気温 24-35℃

(天気図は左下に)

紙面へのご意見  
お問い合わせ  
情報のご提供

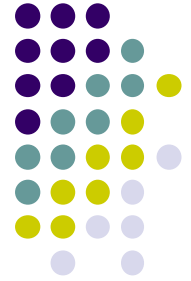
《読者応答室》  
☎097-538-9640  
(平日9:30~16:30)

# 大分合同新聞

夕刊

創刊1886年(明治19年)  
大分合同新聞社  
〒870-8605 大分市府内町3-9-16  
代表 ☎097-536-2121  
Eメール info@oita-press.co.jp  
© 大分合同新聞社 2018  
朝夕刊 完全連続紙

# 問題提起



@プラスチック汚染は地球規模の問題

気候危機、脱炭素と密接不可分

@安易なりサイクル・安易な代替品は要注意

総量の議論、総量削減が重要

@日本は使い捨て大国

ペットボトル 250億本？

レジ袋 500億枚？

傘 1億2千万本

周囲は海

日本の国際的責任は大きい